

野洲市民病院整備事業に関する協議録（要旨）

日時 平成 31 年 1 月 16 日（水）14:00-15:30

場所 野洲市役所 第 1 委員会室

出席 守山野洲医師会 7 名

御上会野洲病院 院内理事 6 名

野洲市：市長、政策調整部長、健康福祉部長、健康福祉センター所長、
市民病院整備課職員

守山野洲医師会、野洲病院及び野洲市において、市民病院整備事業を進めていく上での課題認識を行った。それを踏まえ、野洲病院の経営健全化への対応策について協議を行った。

➤ 課題提起（市）

本年 7 月 1 日の市立病院の開院に向けて、野洲病院からの事業承継を進めている中で次の課題を認識している。

- 職員の採用、内定手続きを進める中で医師不足の課題が判明したことから、年末に滋賀医科大学診療科教授と面会し協力依頼を行っている。
- 野洲病院の経営について、市立病院への移行に向けた経営の健全化の取り組みが必要な状況である。
- 市民病院施設整備については、実施設計業務が約 3 ヶ月の遅れが生じている。また、建築費について、資材の高騰と消費税率の改定により、現時点において約 6 億 4,000 万の増加を見込んでいる。
- 病院整備事業に対して訴訟が提起された。市長コメントとしては、事業を進めるとしているが、今後、裁判を抱えながら事業を進めていかなければならない。

➤ 野洲病院借入金返済計画と経営改善計画について（野洲病院から説明）

◇ 短期借入金 350,000 千円に対する返済について、本年 3 月末において 100,000 千円の返済を予定している。残額 250,000 千円については、6 月 30 日時点における流動資産の医業未収金 345,068 千円のうち、7・8 月に入金される社会保険、国民健康保険、診療報酬により返済予定である。

◇ 長期借入金のうち、野洲市への 225,561 千円は、平成 28 年 7 月 29 日付け基本協定書及び同年 11 月 24 日付け確約書に基づく、包括承継

に係る負債として処理されること想定している。

- ◇ 守山野洲医師会との連携により、入院患者の受入れ、外来診療（検査）の受入れ、訪問看護の新規利用者受入れを強化することで約 30,000 千円/月の収入増を目標に経営改善を図る。
- ◇ 医師確保については、糖尿病・内分泌代謝内科、人工透析を含む腎臓内科、脳神経内科の常勤医師の確保に取り組む考えである。また、麻酔科について、4月から常勤医師を確保、泌尿器科は7月から常勤医師1名の増員が決まっており、眼科、リハビリテーション科の常勤医師についても医大に対し早期の派遣を要望しているところである。

➤ 意見交換

（医師会）

- ✓ 野洲病院は、今回の経営改善計画の実行により変わっていき、7月にはさらに良い病院になると期待している。
- ✓ 医師確保は大事なことだが、黒字経営であれば問題はないのではないか。
- ✓ 野洲病院の改善計画の実行、実現について市と病院が連携して進めてもらいたい。

（野洲病院）

- ✓ これまでの市民病院整備事業における市長の事業凍結宣言、市議会による予算否決による事業への展望がない状況が医師確保の困難さにも影響している。
7月1日の市立病院開院時に予定する医師数を確保することはできない。医大からの医師派遣を受けることは困難と考える。
- ✓ 現時点において、4月から2名、7月から1名の医師確保の見込みがある。今後、市立病院が実現し、事業が目に見える形で進んでくると医師確保にも好影響がでてくると考える。
- ✓ 常勤医だけでなく非常勤の医師により診療科が確保できている状況もある。
- ✓ 職員は経営改善に対して一生懸命取り組む姿勢である。経営改善を実行して7月には市立病院に確実に繋ぐためにしっかりと取り組んでいく。

（野洲市）

- ✓ 事業を進める上で非常に厳しい状況となっている。今後、1月24日には、市議会臨時会が開催され、裁判費用に係る補正予算等を提案し、その後、市議会定例会では、新年度当初予算について審議されることで議会の判断を受けることになる。
野洲病院において3月末の債務返済を乗り越えることができるか、大きなポイントである。

- ✓ 7月から計画する診療科が揃わないと状況は厳しい。努力は理解できるが、結果が伴わないとダメである。
- ✓ 7月以降（市立病院）の医師確保は市が責任を持って取り組む。野洲病院には、経営健全化の責任があり、3月の債務返済をクリアすることを望む。
- ✓ 1月24日開催の市議会には、これまでのとおり事業を進める姿勢で臨む。